



～子どもの育ちを応援する情報を発信～

のびのび通信



こんにちは、秋も深まってきましたね。言葉についての心配は多くの親御さんからお聞きします。今回は、言語聴覚士等の視点から、<ことば>について子どもへの関わり方を具体的にお伝えします。日頃、何気なくしているやりとりを見直すことで、子どもとの関係がよりよくなっていく…そんなヒントになればと思っています。

言語聴覚士さんに質問！

子どもの言葉がなかなか出ません。どうかかわったらいいですか？

実は、<ことば>とは、話せる言葉（耳で聞こえる言葉）だけが<ことば>ではありません。次の3つの要素があります。

①話せることば(音声言語)

例えば、「イヌ」のように、音声言語として口から出ることばのことです。発音は、口唇や舌を細かく動かすことを含めた体の使い方、体の発達に支えられています。

②わかることば(言語・概念)

『イヌはワンワンとほえる』など、イヌについて知っていること。実際に見たり触ったりする経験を重ねて、「イヌ」がわかっていきます

③コミュニケーション

人に伝えたい気持ち、人に向かう気持ちのことです。例えば、「あ！イヌがいたー！」という発見や気持ちをわかってほしくて声を出します。

言葉の意味がわかり、発音する力があっても、③の伝えたい気持ちがなければ、<ことば>は音として、口から出てきません。②と③がそろって初めて、①のことばが生まれるのです。①ばかりに目を向けず、②や③を育てることも大切です。

『ことばのキャッチボール』ということばを聞いたことがありますか。会話はキャッチボールと同じで、聞き手一話し手の相互作用です。子どもの発達レベルに合わせて、やりとりが続くようなかかわりが大切です。そのようなかわり方の一つに『インリアル』という考え方があります。

◇インリアルとは◇子どもの主体性を大切にし、子どもが自分から遊びやコミュニケーションを始める力（主導権）を持つことを目標としています。大人がとるべき基本姿勢と7つのかわり方が示されています。

大人がとるべき基本姿勢 子どもの好きな遊びのなかで

子どもを静かに見守り、子どもの興味や遊びを観察し、子どもの気持ちや発達レベルを理解し、子どもが言おうとしていることに心から耳を傾ける

①子どもの行動をまねる（ミラリング）



②子どもの発声、ことばをまねる（モニタリング）



③子どもの行動や気持ちをことばで言う（パラレルトーク）



④大人が自分の行動や気持ちを口にする（セルフトーク）



⑤間違えたことばを否定しないでさりげなく直す（リフレクション）



⑥子どものことばを広げて返す（エクспанション）



⑦子どもに新しいことばのモデルを示す（モデリング）

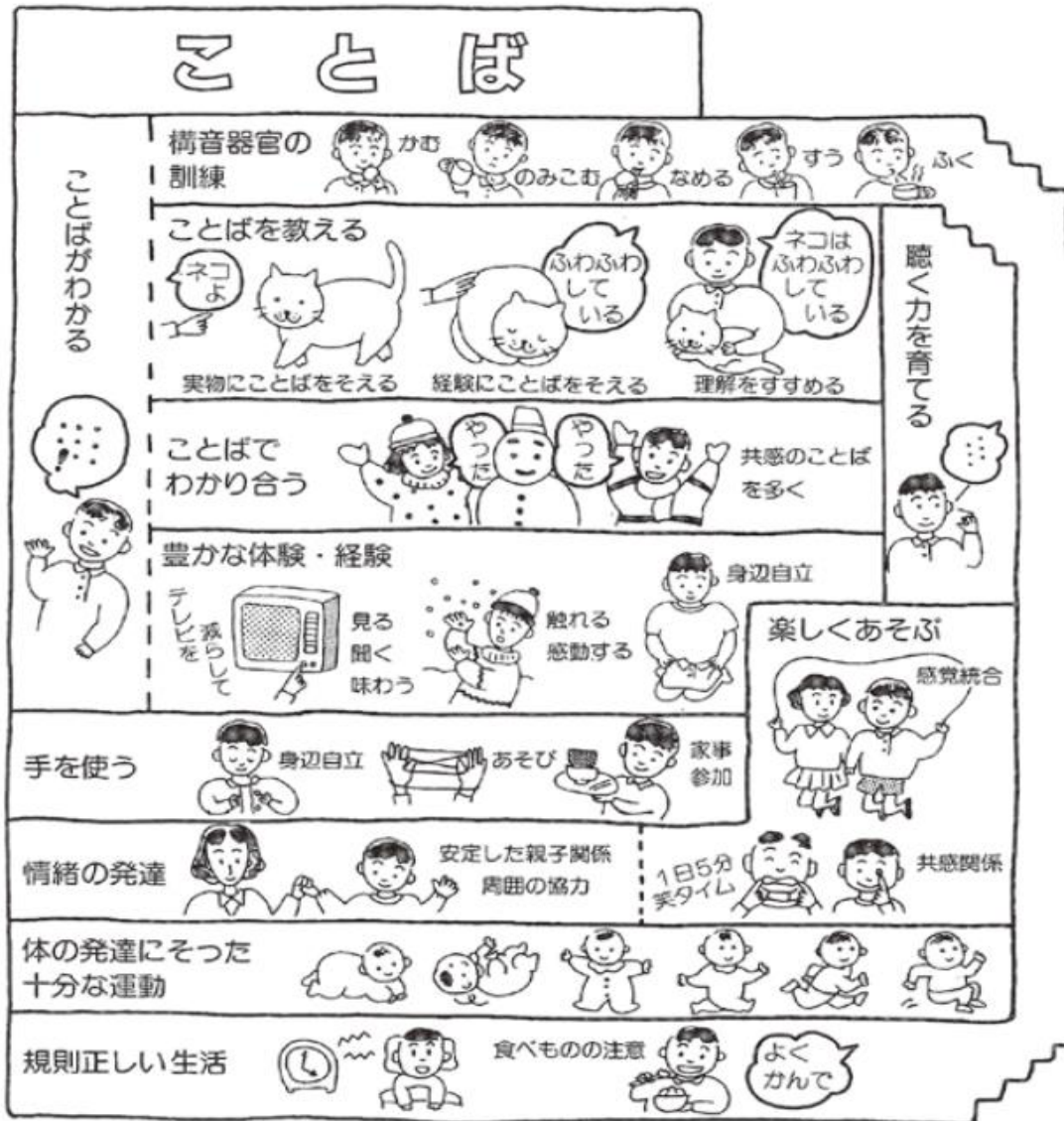


私たち大人も子どもと一緒に遊びを楽しみ、子どもの気持ちに沿ったことばをかけていくことで、豊かなコミュニケーションが生まれていきます。子どもたちが「話すことが楽しい」と感じ、自分の気持ちを表現できることを目指して、サポートしていきましょう。

参考資料：「INREAL 豊かなコミュニケーションを目指して」竹田契一、「実践インリアル・アプローチ事例集」竹田契一監修 里見ら香 日本文化科学社

ことばのビル

「ことば」が発達するために必要なことをイラストにしたものです。



(引用)

ことばをはぐくむ～発達に遅れのある子どもたちのために～

びどう社 中川信子著

発達支援課で
本を借りてみませんか？

発達支援課では、乳幼児から大人までの幅のある年代の発達に関する書籍を貸し出しています。お気軽にご利用ください。

机と椅子がありますので、ゆっくり本を選んでいただけます。

2階
カウンター
図書コーナー
トイレ
百友館
西友側

お知らせ

- ✓ 利用できる人
甲賀市内にお住いの方、通勤、通学されている方。
- ✓ 貸し出せる数
1度に3冊まで。
- ✓ 貸出期間
3週間程度
- ✓ 貸出方法
借りたい本を持って、発達支援課のカウンターにお越しいただき、スタッフにお声がけください。
- ✓ 所定の「図書貸出申請書」にお名前、連絡先、借りる本を記入していただきます。

発達支援課のHPもぜひ、ご覧ください。